

# 第3回宇治市観光振興計画策定委員会

## 会議録

日時：平成24年10月22日（月）午後2時～

場所：市役所8階 大会議室

### 次 第

1. 開会
2. 観光戦略・アクションプランについて
3. その他
4. 閉会

#### （資料）

- 資料1 宇治市観光振興計画案の全体像
- 資料2 観光戦略・アクションプラン

< 出席委員 >

坂上 英彦	京都嵯峨芸術大学教授
森 正美	京都文教大学教授
神居 文彰	平等院住職
北村 善宣	社団法人 宇治市観光協会副会長
古賀 則行	平等院表参道商店会会長
通円 亮太郎	宇治源氏タウン銘店会会長
中西 敏	宇治橋通商店街振興組合理事長
八木 一樹	公益社団法人 京都府観光連盟専務理事
山本 哲治	宇治商工会議所会頭
林 啓志	京都府山城広域振興局農林商工部長
木下 健太郎	宇治市都市整備部長
中村 俊二	宇治市総務部長
松田 敏幸	宇治市市民環境部長

事務局：宇治市産業政策室商工観光課  
(株式会社グリーンエコ)

敬称略

《資料 宇治市観光振興計画策定委員会名簿》順

## 【1.開会】

### 【坂上委員長】

坂上でございます。第3回の宇治市観光振興計画策定委員会を始めさせていただきたいと思っております。

この夏の集中豪雨で災害があって皆様には大変だったと推察をいたしております。この会議が、そのために少し延びたというふうに聞いておりますが、無事にお集まりをいただきましてありがとうございます。今までの会議の中で、計画の考え方については皆さんからたくさんご意見をお伺いさせていただきました。事務局のほうで案を取りまとめおります。今日の中心的な議題については、具体的な観光戦略なり、アクションプランについて、皆様方のご意見をお伺いしたいというのが今日の議題でございます。既にお手元に事前にご送付をいただいております資料の中で、事務局のほうから5つの柱ということが出ておりますので、まずこの内容について事務局から説明いただいた後、意見交換に入りたいと思います。意見交換については5つの柱ごとにご説明いただき、各委員からのご意見をいただきながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくご協力のほどをお願いいたします。では、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

## 【2.観光戦略・アクションプランについて】

### 【事務局】

《資料1.2(宇治茶ブランド活用戦略の章)》の説明。

### 【坂上委員長】

ありがとうございます。今回の観光戦略、アクションプランでは、宇治茶を一番に推していこうという考え方を、具体的に計画へ落とし込みされているところですが、これについて、ぜひ皆さんからご意見をいただきたいと思っておりますので、どなたでも結構ですから、どうぞお願いいたします。

### 【神居委員】

平等院の神居でございます。今、宇治茶に染まる観光の推進ということで、事務局からご提案をいただきました。私自身、この宇治茶に染まるというのは、前回のときに提言したことで、非常に具体的になっていると思っておりますが、今お示しいただきました1-1の10個のアクションプランを誰がやるのか、また実施年度というのを少し見させていただきましたところ、実施主体の10あるうちの7つまでが、すべて観光協会さんがかかわっています。具体的に、宇治茶に染まる観光推進を観光協会が主体として事業を進めることが実施可能かどうかということ。これについて、非常に疑問に思わざるを得ないということと、本来の観光協会の役割というのは、こういったことばかりに特化して良いのかということ。これについては非常に、疑問に思いました。今の観光協会の人員の問題、それから組織力の問題、さらには、それぞれ個々の持っている宇治茶に対する認識度を含めて、観光協会に、これらをほとんど10のうち7というのは、丸投げに近いような状態です。このうち行政にかかわるのは、ずっと事業をしておりました太閤堤であるとか、宇治茶のために宇治駅の問題であるとか。今事務局のほうから、宇治駅だけでない広域なということ

を、お話を逆にいただいておりますながら、行政というのは宇治駅のところだけしか、あと太閤堤しか入っていない。これはちょっと本当に実施ができるのかどうかということについて疑問に思いました。

それから、宇治茶ということに関しまして、宇治茶をブレンドする茶師の方々や、販売、または生産、それらが満遍なく宇治にあるにもかかわらず、これらのアクションプランというのは、どちらかというと茶師、または、それに類する方々に偏っているのではないかなと思っています。当然、宇治茶を使ったスイーツについて、これをもし考えるならば、本来、観光協会ではなくて、業者と行政が積極的にスイーツなどを展開していく必要があると思いますので、どうもこれについて、実効性について疑問に思いました。そういったことでございます。

#### 【坂上委員長】

ありがとうございます。今お話がありました観光協会さんのほうは、いかがでしょうか。

#### 【北村委員】

観光協会の北村でございます。今、神居先生のほうからおっしゃっていただきました観光協会の役割分担の話。やはり観光協会というのは広報とか、宣伝とか、それと企画されたものを応援するとか、そういった部分が非常に重要になってくると思うのです。そして周知を徹底するということと各団体機関との調整役、そういった部分が非常に重要な仕事であると認識しております。もちろん行政にも指導を仰いで、また、それらも相談した中で、自分たち自身も、やはりアクションを起こすときは起こすという考えでおりますが、今、この10のプランの中で、やはり現状、これだけのものが全部取り上げられたとしたら、ちょっと非常に厳しい対応を迫られる。というのは観光協会職員の正職員は専務を入れまして6名でございます。1名は外部に大体駐在していますので、実質5名ということでございます。そのようなことから考えて非常に厳しい。いろいろこれからの対応も協力は惜しみません。しかし現状、私はそのように思っております。

#### 【事務局】

事務局です。ちょっと先に説明しといたら良かったんですけど。この資料の12ページのところを見ていただきたいと思います。今回、組織の役割として、観光事業者等、それから観光協会、市民、行政という、大きく4つの区分で記しております。おっしゃっていただきました宇治茶の関係であるならば、例えば茶業関係者であるとか茶協であるとか、宇治の商工団体とかがあります。そういったものも含めまして、観光事業者等と表記させていただいております。ですので、特に例えばマップであるとか、いろんな事業では、茶業関係のところにもご協力をいただくということが事業の前提となっておりますのが1つです。

それから、多くのところで観光協会の役割というのがたくさん出てまいります。ただ、これも先ほど北村委員のほうからもご指摘がありましたように、本来の役割としては、情報発信、あるいは先進事例を紹介するであるとか異業種間の調整であるとか、そういったところが中心的な役割になってくるであろうと我々も考えております。ただ、今回提案させていただいているものは、今までからの既存事業が含まれている部分もありますが、基本的には、観光協会がこれまでから

やってきた事業に上乘せになるという形になります。ですので、そのあたりについては今後、観光協会の中で具体的に、こういった事業を優先するのか、今回はいろんなヒアリングをさせていただいてきて事業を提案していますが、それについて、さらに観光協会の中で、どれを優先すべきかといったところを、総会なり理事会なりのほうでご検討をいただきたいという調整をさせていただいているところでございます。

#### 【神居委員】

委員会の上に総会、もしくは理事会に任せるということは、これらの具体的なアクションプランのほとんどを、観光協会の運営の中に入れて考えていくということですよ。とすると、もう少しきめ細かく事業主体を本当に具体的にどうするかということを考えながらこの関与を。せっかくこういった形で宇治市が召集したわけですので、行政が主体になって、各課を含めて、代が変わっても引き継いでいてくださるようなことを考えないと。あと5年もかけた実施年度の中で、ちょっとこれはどうかなという思いがございまして。私自身は、もう少しきめ細かく事業主体、実施主体というのを考えて、実施年度を具体的に考えていただきたいような気がいたします。誰がいつまでに、どのセクションが行うのか。もし、それであるならば、観光協会の役割というのを、きちっと、この会議の前に固めておくという必要があるような気がいたします。私、観光協会というのは、ブロードバンドの時代がさらに発展していく、またはネットで世界中の情報がとれるという中で、正しく、それでいて即時性を持った観光情報の発信をしていく仕事に特化すべきだと思っています。いかがですか。観光協会の役割というのは、これを任せられてやれますか。

#### 【山本副委員長】

今、神居先生からおっしゃるとおりでございまして、協会としても、アクションプランの中では、本当にできるのは1つか2つぐらいしかないと思います。それなりに協会との打ち合わせ等があったら、もう少しスムーズにいくかなと思います。

そして、ちょうど今年が世界遺産40周年で、ちょうどいい機会ですね、11月の5日、6日。そして8日の日には、宇治の茶園を見に来られるということ聞いています。ちょうどいい機会なので、もうちょっと具体的なものを提案していただいたほうが、良いのと違うかなと思います。例えば世界遺産の委員の世界から来られるお客さんの対応は観光協会では大きすぎてちょっと無理なので、もうちょっとその点を先に協会のほうと打ち合わせをしていただいたほうがいいんじゃないかなと。

#### 【神居委員】

副委員長がおっしゃいました、今の件を含めてですけれども、例えば世界遺産40周年、これに関しまして言うならば、まちを歩いているといろいろなことを聞きます。「なぜ、こんな時期に修理をするんやろうか」とか「全然人来えへんやんか」とか「灯り絵巻の日に平等院さんは何もしてくれへんやんか」とか「修理なんてせんでもええんやないか」と、そんなこともお聞きします。であるならば、修理を本当にしなくて、そういったものが守られていくのかということ。これ、恐らく現在の宇治市民の、ある一定持っているメンタリティにかかわるような気がいたします。

単なる観光資源でなくて、修理をしないといけないもの、これが世界遺産、世界中の遺産として守っていくということ。特に世界遺産は、宇治市という行政、いわゆる地方自治が受け入れていただいて、それで所有者と一緒にやっていくということであるわけですが、きちんとそういった発信ということも、そういった声が住職の私まで聞こえてくるというのは、非常に宇治市としても、いわゆる世界遺産の対応ということにも問題があると思います。

今後、きっと社会は新しい産業として観光というのを、どの地区も考えていくはずですが。その中で世界遺産が既に2つもあるこの地区を本当にどうしていくかということ、観光ということと、併せて観光資源の問題として正しく考えてやっていただきたいと思います。

ちなみに、この40周年のことにしまして、私のほうに2年も前からいろいろ問い合わせがございました。そのときに、できればその時分に修理等をしないわけにはいかない。逆に、日本のこういった遺産というのは、修理をしない限り次世代につなげることはできない。ということ、ユネスコの方々が宇治に来たら、修理の現場を見てほしいということをお願いして、今回、5日、8日の日にすべて委員の方々に、世界中から修理現場を見ていただくという、そんな時間をつくっています。単なるエクスカージョンで対応するだけでなく、もっと広い文化ということや、ものを守ること。そして、それが観光資源にもつながっていくことの提言として、私は実際の修理現場と、院を見ていただくということを進めてきました。一体何が大切で、何をしていかなきゃいけないのか、ということや役割分担。私は社寺の駐留者としてできることをずっとしております。同じように、宇治茶にかかわるこれらについても、観光協会への丸投げについては、少しちょっと賛成しかねるところはあります。ちょっと具体的に、実効性には、すごく疑問がございます。この事業をすべて否定しているわけじゃないんですが。

#### 【森委員】

私は観光協会のほうの専門委員会に参加させていただいております。その関係から申し上げると、実際、事務局のほうから12ページの役割が相当問題だという話は、実は、その専門委員会の中でも話が出ていて、これは本当にニワトリが先か卵が先かじゃないんですけれども、観光協会自体が現在やっている既存事業みたいなものがある、それは、先ほど北村会長のほうから、観光協会は、その公募をしたりとか後援をしたりとか、どちらかというサポート役なんだと。本来は、そうありたいということをおっしゃったんですけれども、例えば10のビジョンがあれば観光協会が7割ぐらいの実施主体になっている。その実施にかかる調整機能を観光協会が担うところは多分、相当に大変だということは議論しているんですけれども。理想としているところと現実には既に乖離をしていて、その現状を相当強く認識しないとけない。

その上で、そうなったときに、専門委員会のほうでは、事業者、当事者の方が入っていらっしゃいます。このプランをつくる時、確か前回のこの委員会でも、事務局に各事業者へヒアリングをして、自分のところでやってもいいというふうに思われる主体的に関与できる可能性のある事業をヒアリングしてもらおうということをお願いをしています。専門委員会のほうでも、主体的に関与できる可能性を検討していただくに当たっては、先ほど神居さんのほうから寺社としてできることをやってきたというお話がありましたけれども、これは、こう書いてあるけれども、この事業者は自分だというふうに、それぞれの茶業者さんとか商店街とか、お土産物屋さんとか宿

泊とか、いろんな関係のところが入っていらっしゃるの、これは自分のところで引き取れるという認識がおりますか、どうですかということは、再三お聞きして、そのところは事業者等になっているんですね。

ただ、はっきり申し上げて、行政のほうでもこれまで、調整機能というさまざまな団体を繋いだり、何か実施するときに全部自分で実施しなくてもいいけれども、調整して振り分けるという仕事をきちんとされてきたのかというと、それは多分、観光協会が何となく担ってきた部分がある。先に観光協会を決めてから、このプランを持ってきたら、きれいに収まるのかというと、そういうふうにもいかないだろうと。そうすると、この策定委員会で、やっぱりこれは、もっと行政として機能強化をする、あるいは、もう少し宇治市の観光行政と観光協会の関係を、例えば人事交流とか予算的なものとかも含めて、きちんと体制整備をするとか、何か、全体の仕組みに踏み込んだ話をしなければならぬ。事業者さんに全く聞いていなくて、勝手に事務局がアイデアとして出したメニューが並んでいるわけではないんですね。ただ、それぞれの組織の中で、単体で役割分担を決定するという事は、たぶん不可能なので、かなりここで突込んだ話をしなければならぬし、その上で事業者さんには当事者としてかかわれますかということを確認しているので、それを、それぞれに実施団体を、この計画の大枠のプランじゃなくて、実施プランのときに、もっとこの枠を入れるということは可能なんだと思います。

なので、最初からこの中身の話が体制の話になっているんですけれども、多分これ、すべてのところでこの話が出てくるということかなと思います。

#### 【神居委員】

多分、森先生がおっしゃるとおりだと思うんです。既に話は、ある一定のところまで通しているグループが結構あると思うんですが、その上で、それを今言った仕組みの中でまとめるのが、失礼なんですけど、観光協会に今、実際これだけの分を投げて、可能かなというのが、ちょっと疑問に思っていたので、もう少し細分化した、もう少し踏み込んだ話をしてほしいということを行っているんです。

#### 【森委員】

それは、すごくよくわかります。ですので、ここの12ページに書かれている観光協会の役割の部分は、理想としてはそうだけれども、現実としては、こうはならないだろうし、そのままで、この役割分担のままだったら多分、このアクションプラン自体は、坂上委員長が一番恐れている委員会のうちにやり切れないということになってしまう。

#### 【坂上委員長】

実施主体のところの表現は、例えば議会に通すときに、ここまで書ききれないということになると、多分、その時点でも書き切れません。むしろ公の文書では、この実施主体は別になくても、施策としてのテーマだけ整備されていたらいいかなというふうに私は思います。ここに実施主体を書くことによって、逆に、この計画が進まないのであれば、やるべきことは、ある程度みんなで意見統一しましょうと。やり方については、恐らく1つずつプロデューサー的な人

が入って整理をしていかないとできないことが非常に多いので、誰が事業主体になるか、誰がお金を出すかというふうに言うと、わかりやすいかもわからないんですけども。例えば受託を受けて、その人が走り回って、この施策を遂行するというのは誰かという、それを実施主体と言うべきかどうかというのは、かなり1つずつチェックをした上でないと表現し切れないのではないかなというふうに思いますので、今日のこの会議の場で、これを1つずつ、これが正しいかどうかという議論は、恐らくできないかと思います。今日のご意見を基に、事務局のほうで、この表現方法なり、関係者のご意見をもう一度ご確認をいただくということにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

**【神居委員】**

それについては、しかるべき形でいいと思います。

**【事務局】**

事務局からですけども、今回はいろんな方にヒアリングをさせていただいて、まとめたということです。ただ、それをそれぞれがやってくれはるという理解を得ているかという、そうではないです。おっしゃるように、まだ不確定な部分がありますので。ただ、今、我々が考えていますのは、できたら次回12月に策定委員会をやっていきたいなというふうに思っているんですけども、11月の間に幾つか、例えば商店街であるとか観光協会であるとか、こういう提案をさせていただいていますよと。じゃ、ご協力いただけますやろかと。あるいは、もっとこんなことをしたほうがいいのかというようなことがご意見としてあれば、それも含めて調整はしていきたいなと。それで、次の正案に持っていききたいなというふうに思っています。確かに、おっしゃるように、全部整理してから出すべきやというのはわかるんですけども、どっちが先かというのを、ちょっと我々のほうも悩みまして、まず1回出してみようと。それで、これはできるけど、これはできないと言われたら、それでもやっぱり重要やと思えば、行政としてやる必要は出てきますでしょうし、そのあたりもちょっと悩みながら事業主体を入れました。なおかつ、おっしゃるように事業主体、例えばマップの作成で事業者と観光協会と入れていますけども、調整役はイメージとしては観光協会ですよと、事業者は、その情報を提供しますよ、あるいは広告料として金出しますよというようなイメージで、我々のほうは、今回事業主体の中に入れていたようなイメージです。

**【坂上委員長】**

じゃ、次回に向けて、もう少し関係者の人の調整が入るという前提で、この資料を見るということでもよろしいですか。

**【森委員】**

1つだけ。細かい調整はそれでいいんですけど、やっぱり行政の役割の位置づけみたいなのは、今の話の持っていきようも、途中まで、すごくいいなと思っているんですよ。だから11月の段階で、これでやっていただけますかということ、事務局サイド、つまり行政サイドとして



回ると。そうすると、そこまでは何となく行政のほうが調整機能を果たしているようですが、いざ実施のときになると、調整役は観光協会で、観光事業者が情報等を担当させるという。それだったら、やっぱり観光協会の果たす分量というのは全く変わらないどころか、どんどん増えていく。ですので、根本的な機能強化みたいなものを、このときに、どう考えるのか。つまり、宇治市として観光振興というものを、やっぱりもうちょっと、どういうふうに考えるのかということ踏み込んだところで考えないと、結局、その調整が実は一番人手と手間がかかる。それぞれが走り回ると言うけど、そのそれぞれの人はいないので。そこが本当に私としては協議はできませんが、事務局が案を出せるというよりは、むしろ、ここにかかわっている委員の皆さんが、宇治市が今までやってきた観光の、宇治市がというか、宇治市内でみんなが取り組んできた観光の問題点は何で、もういっぱいなんだというところで、どう変えたらいいんだということ、ここで意見交換をすることは結構重要なのかなと、私自身は思っています。これで事務局に戻したら、事務局は、前向きには検討できる権限がないので。自分で中から、はい、人を増やしますという話にならないんじゃないのかと思うんですけど。

#### 【坂上委員長】

今のご指摘は、宇治市だけでなくほとんどの観光地における行政と事業者さんとの関係が、非常に危ないまま進んでいて、結局は、この組織論の話を整備しないといけないんです。ただ、なかなかメビウスの輪のようになっていまして、答えが出ない輪っかのほうに入ってしまうので、できれば宇治市版の望ましいやり方というのを、みんなですっと研究というか検討し続けないと答えが出ないのではないかなというふうに私は思います。

一般的には、行政はお金と企画を準備すると、実施は協会がやるべきこと。そのときに、協会にスタッフがいない、あるいは予算がない。この問題を解決しない限りは、この本質的問題というのは解決できないですね。日本の多くは、非常にあいまいになってきています。海外は、それは非常に明確である。それは観光税を地元でとっているからです。この税が観光協会の原資なんです。日本はこの観光活動の原資が一般税から入ってきます。これは、議会では認められなくて、そんなに多くの観光協会、特定業界に寄与するののかというふうな意見になってしまうので、なかなか議論がまとまらない。本当は、観光客が落としてくれる消費というのは非常に重要なので、本当は先行投資をしないといけないんですけども、これは、どこまで腹を行政がくくるかにかかっています。

こここのところを、宇治がモデル的に全国に範を示すようなものができたら、それはスムーズに解決できると思うんですけど、やや時間がかかりそうかなという気がいたします。

一般的に、多分、観光連盟さんも京都府の連盟の間でいろんなご意見が出ている。同じ状態が全国のいろんなところでもあります。言われている割には、金も人もつけてくれへんのにどないするねんという、こういうのが現実の問題なので。しかし、これを避けて通るわけにはいかないんですから、やっぱりそれなりに、宇治市は宇治市なりに、みんなが理解するようなやり方を求めていく必要があるかなとは思っています。海外だったら多分、これはスムーズで、お金の循環が明快になっておりますので。

あまり、その話ばかりしていると、ほかのが進まないの、そのところに、やや問題が

行き着きますよという前提を頭に入れながら、具体の事業についてお話を、議論をしていただければと。はい、協会さん、どうぞ。

#### 【北村委員】

宇治茶を使ったスイーツコンテストの実施について、やろうかという段階で非常に情報量が少なかった。やはり他のお茶の生産地の、ちょっと情報をまだ溜められていない。幸いにも、ある県で去年、おとしと2回実施されていて、やはり、そこには、こういった企画で、失敗と成功例を示していただいて、そこでどうなっていましたということを題材に示したということで、幸いにも、そういうレビューを持っていましたから、ある程度の枠、総枠がわかったんですが。やはり、これからは、こういう新しい企画を立ち上げるときには、やはりコンテンツとしても類似のものをもっと研究するとか、他産地の何いう茶を栽培している観光協会と交流するとか、行政は行政で、やはりそういったネットワークを生かして、情報収集をした中で、失敗も成功例も、やはりその辺をお示ししていただいた中でやっていくというのが非常に大切ではないかと思うんですけども。やはりその都度、コンサルタントさんを使っていたのでは財源が持ちませんので、そういった情報収集をもっと図る方法を、また各機関と連携しながら入れていくとか、そういうことが大事じゃないかと思うんですけどね。

#### 【神居委員】

今の1-1から1-3、1-1から10というのを提示してくださっています。それぞれ非常に良いと思うのですが、私、観光ということであるならば、宇治に来て感じてほしいということは話したけれども、もう1つ、宇治茶ということの、いわゆる、これで1-1から1-3の16項目は、言ってみれば、こちらで接待するお茶なんです、待つお茶なんですよね。宇治に来てからのお茶。お茶というのは全国、例えば八女の人にとっては八女茶が一番おいしいと言いますし、これは宇治茶よりおいしいですと渡されます。狭山に行ったら狭山でそう言って渡されます。静岡に行ってもそうです。ですから私は、待つお茶以外に、やはり出て行くお茶という、そういったことは、これは行政じゃないとできないと思うんです。外でも宇治茶。例えばJR東海に乗ったら出てくるのは全部静岡茶だということ。そういったことへの働きかけ等々を含めたこと。後に見てみると、例えば宇治茶サミットとか、いろんなことを考えていくと思いますけれども、やはり奈良線に乗ったときの宇治茶、外で宇治茶がやっぱりある。全国にいろんなお茶があり、おいしいんだけど、独特のお茶があるよと。それらを外で発信して、ここに来たいと思わせる方法、それは行政じゃないとできないので、そういったプランというのをに入れていただけたらうれしいと思います。

外でのいろんな宇治茶のイベントで、なおかつそれでは足りないので、宇治に来て、もっと別のお茶があるよと。例えば今、煎茶でしたら年1回、萬福寺さんで煎茶大会がありますけど、あいった全国大会。宇治市に来たら、煎茶のすべてが飲める。宇治茶というところで、長い年月も必要ないかもしれませんが、刷り込んでいく。または、お抹茶の大会を含めて。そういった話題やお茶に対して宇治から発信できる話題というのが残念ながら、外ではあまりないような気はしています。西大寺さんの大きなお抹茶で飲んでいくことなんか宇治ではないですし、

そこで使っているのが一言、宇治茶ですなんて言ったら、ものすごく面白いですけれども。そういった仕掛けというのを、やはり外での宇治茶、待つお茶ばかりのプランじゃなくて、外でどういう発信をして宇治に来させるかというプランも、アクションプランの中に入れていただければ、うれしい気がいたします。

こちらでしたら、ちなみに、何かあるごとに、外の展覧会とか企画展、または出開帳というのを、すり込みというのをします。なおかつ、そこでは全部見れないから、やっぱり平等院行きたいなど。そういった仕掛けが、やはり、来ておいしいお茶がありますよと待っているばかりでないプランということも、やはり行政で考えていただく必要があるんじゃないかなと、見て思いました。

#### 【坂上委員長】

ありがとうございます。最後のところ、両方にかかわるんだと思いますが、流客、集客のための事業という、そういうところが、この宇治茶の2ページ、3ページは、あまり具体的でないというご指摘かなと思います。どうぞ。

#### 【通円委員】

アクションプランで、ほとんどの項目にお茶の字が入っているわけなんですけれども、私も、宇治茶保存協会の会長をしていたり、組合長をしていたりしているわけなんですけれども、やはりお茶。来週土曜日に文教さんが来て聞き茶めぐりをさせていただきますけれども、そのお茶屋さんの対応もだいぶ増えました、初回から比べたら。そういったことで、だんだん周りからいろいろすることによって、お茶屋さんも目覚めて、やらなあかんというふうになってきていただいていると思うんです。

このアクションプランの中で、駅を降りたらお茶の香りなんですけれども、これは非常にいいことやと思うのですが、これはおそらく製造を伴わないお茶の香りの演出やと思うんですけれども、その演出の仕方ですね。これ誰がするのやと。先ほどありましたけれども、誰がこんなことをするのやと。以前に香り出し機というのがあったんですけれども、その香り出し機も、あんまりにおいが立たなくて、いつの間にか廃れていっていますし、茶香炉というのが4、5年前にはやりましたですね。あれをやっている、ほとんどにおいが立たないです。お茶のにおいというのは非常に上品でして、火をきつく当てなければにおいが立ちませんので、そういったことの研究も併せてしていかないと、これも無理やと思います。

それから、おいしいお茶の試飲なんですけど、うちの店、お客さん来ていただいて試飲していただいているんですけど、なかなか茶を淹れてても、お茶を入れている間にお客さんが帰られるというケースがあるんです。やはり、お茶を淹れようと思ったら3分から5分間ぐらい待っていたかないとお茶が淹れられないんですね。ですから、お客さんが入ってこられて、すぐにパッと見てパッと帰ってしまう、ゆっくり品を定めるといことをされませんので、お茶はスローフードやと、ゆっくり出して淹れるのがおいしいのやというPRもしていただかないと駄目やと思うんです。

この実施主体ですけど、宇治茶商工業協会という団体があるんですけれども、これはどうい

ふう活躍したらいいのかなと。観光協会さんと観光土産品組合とは、割と仲がよく協同でやられている。宇治茶商工業協会というのは、なかなか観光協会さんと一緒に事業をやるということは少ないと思うんです。また、行政の管轄も、茶業商工業協会は農林茶業課管轄になってしまっていて、どうしても農林茶業課のほうは生産者向けのほうが多い。宇治の商工業界も中ぶらりんになっておりまして、私も以前に理事長をしていたんですけど、結局、任意団体にしてしまって今、細々とやっている。そういったところで、もっとお茶屋さんを使っていたらいいなと。お茶屋さんって割と保守的ですので、伝えたら動きますけど、伝えなかつたら、そのままじっとしているというのがお茶屋さんやと思うんです。そういうこともしていただきたいなと思います。

また、茶まつりと献茶祭について、茶まつりは10月の第1日曜日にしてありますけれども、若い人の意見を聞きますと、何でこんな金かけてますのやと、何で家元呼んでますのやというような意見が、ちょっと増えてきているんですね。文教さんの女性の方に行事に参加していただいたんですけども、もっと行事を増やしていこうと思ったら費用がかかるわけです。予算的にも大変少ない予算でやっていますので、大変なんですね。ですから、献茶祭なんかも以前は800人から1,000人の規模で献茶祭をさせていただきましたけれども、なかなか予算的な面と、券の売りさばきの問題とか言われまして、本当に関係者だけしか来ていないような状況になっています。

そういったことで、もっと観光協会や行政や宇治茶商工業協会など、せっかくあるんですから、もう少し、より踏み込んで指導をしていただきたいなと思います。以上です。

#### 【山本副委員長】

この1つで1時間ぐらい近くになってしまいましたね。あと、まだ残っていますので、1つだけちょっと簡単に聞きたいことがあります。

宇治川と太閤堤跡の整備ということですが、今、宇治へ観光に来られる方は、まず第一に、お茶の茶園畑はどこにあるかということをよく聞かれます。ぜひ太閤堤跡に体験型のお茶畑ができたら素晴らしいなと思います。そこに観光案内所を併設したい、整備しますと書いていますが、ここに観光案内所が要るかな、どうかなということ。ぜひ、つくっていただくんなら京阪の近く、駅前あたりにつくっていただいたら大変うれしく思います。そして、また太閤堤跡に、観光案内所をつくるとしても、そこへ行く人だけしか利用できないと思うんですね。ぜひ京阪の駅前あたりに観光案内所が、この代わりにできたらいいなと思います。

#### 【森委員】

この前の専門委員会でも、誰が歩いていくという話、かなり出ました。

#### 【神居委員】

私は、次の8の体験のところに関係するのかなと思っていました。市内の茶摘みというか、最初は恐らく太閤堤の整備ということなんじゃないかなというふうに思っていたんですけども。

#### 【事務局】

太閤堤のほうは、ここに書いていますように、宇治茶の歴史であるとか体験型の茶畑をつくるとか、今の構想の中では、そういった話になっていますので、そこで宇治茶のいろんな体験ができるやろうといったことで、今、入れています。おっしゃるように、観光案内所を、京阪宇治周辺の観光案内所というのが、これまでから悲願なんですけど、なかなか適地がないということもあって、この施設をつくる際にということで今、考えているということなんです。おっしゃるように、動線としてどうかというのは確かにあるかどうかとは思いますが、

【坂上委員長】

今、副会長のほうから1つのテーマで1時間近くになってしまったということですので、次のテーマに移りたいと思うんですが、言い残しの方がおられたら。

【事務局】

そしたら方針の5つの方針をざっと先にお話させていただいたほうがよろしいでしょうか。

【坂上委員長】

そうでしょうか。ちょっと私、一言だけ言わせていただきたいと思うんですが。

できないと思うんですけど、まず、お茶をアピールするなら自販機をまちの中から撤去するというのを私は常日ごろ観光事業で思っています。特に宇治茶を各お店で提供をされるのであれば、自販機は景観的にあまりよろしくないですし、実際に、あまりいい結果にはならないですね。ペットボトルを持って歩かれる。実際は1カ所もお茶を飲まれなくて帰ってしまう。これは非常に残念だなと思います。実は、小樽の駅は自動販売機がありません。買おうと思ってウロウロするんですけど、のどが渴いたら結局、運河が見えるおしゃれなカフェに入るようにするんです。結果的には観光客にとって150円のペットボトルがいいのか、400円、500円のコーヒーがいいのかというと、ホスピタリティとしては400円、500円のコーヒーを飲んでもらったほうが、本当の良さを提供できると思うんですね。宇治は、それぐらいの心意気を何か示していただくと、お茶を売っています、各店でお茶も配っています、だから自動販売機は要らないですね、ぜひ飲みたかったら、お茶の美味しいところへ入ってくださいという、そういうストーリーがあると非常にいいなと。夢の話をさせていただきましたが、1つのアイデアとして。

【通円委員】

京都府茶業会議所もペットボトルの自販機を置いているんです。その自販機も、宇治茶だけのペットボトルだったらいいんですけども、ほかの清涼飲料水のペットボトルが置いてあるんです。私、家に帰るときにいつも通って目に入るんですけども。

【坂上委員長】

喫茶店の前に自動販売機を置いていること自体が、自己矛盾になっていますからね。

【通円委員】

京都茶業会議所なり、京都茶協同組合の役員、委員の方が、ペットボトルの原料を扱っているところが非常に多いんですね。ですから、なかなかそういう方々は賛成してもらえないと思います。

【坂上委員長】

では、続いて2以降、ちょっとまとめてご説明いただいて、全体をまとめて意見交換をしたいと思います。

【事務局】

《資料2(豊かな観光資源の保全・活用戦略、観光コンテンツの開発と魅力向上戦略、おもてなしの心を持った人材育成・環境整備戦略、情報発信能力向上戦略の章)》の説明。

【坂上委員長】

では、内容について、全体のご説明をいただきましたので、どなたでもご意見をよろしくお願ひします。どうぞ。

【北村委員】

観光協会の北村でございます。宇治橋上流の景観の保全と載っておりますが、アクションプランにも示していただいております。宇治川の兩岸の自然景観は、よく認識されております。先ほど事務局さんからもスタンプラリーの説明をいただきました。スタンプラリーも22回目を迎えまして、最初は8,000人から始めましたが、今2万人の方が来ていただいているんじゃないかと思ひます。

そういった中、今、このスタンプラリーのコースの中で、やはり健脚コースというのが、非常に変化に富んだ、いいコースだなと思っております。ということで、天ヶ瀬ダムの新開発が計画されていて、この中で平成27年に、新白虹橋完成予定でございます。この新白虹橋まで、宇治橋から2キロぐらいで、歩いて20、30分という距離でございます。できれば、宇治橋から白虹橋を兩岸で結ぶ周遊する歩道の整備ができないだろうか。今、宇治川左岸の市道仙郷谷線で、つり橋から紅葉谷、寺川にかかる橋、松嵐橋のあたりまで400メートルのところに、工事用の、仮ですけど歩道がつけられております。その歩道は3メートルも1.5メートルも、いろいろあります。そこで、川岸にあったモミジとか、いろんな樹木を保全してくれということで、きれいに歩道を迂回したりして、その樹木を保護していただいて、転落防御柵を設けて、張り出しの歩道を、そして擁壁を積んだ歩道に整備されました。私も歩いてみたんですが、車等を全然気にせずに、その景観を散歩できる、ランニングできる、非常にいい環境だなと思ひまして。今は工事用ですから、やはり景観には溶け込んでおりません。しかし、歩行者には、非常にいい取り組みだなと思ひまして。これを亀石さんから志津川橋あたりまで、これを裏にも、このような自然に溶け込む遊歩道が、つくることができないだろうか。1周5キロ。宇治橋上流には12の橋が架かっております。それぞれ景観に富んだ特色のある橋で、橋巡りもいいんじゃないかと思っております。そんなことで、特に、今度の新白虹橋は、やはり深い渓谷の中で激しい流れに洗われた、そ

う昔の宇治川原風景が残る素晴らしい景観でございます。ぜひ、新白虹橋を、新たな観光の構造に持っていけないだろうか。この地域は景観重点区域でもありますので、ぜひ、その辺の取り組み。そして天ヶ瀬ダム、そして森林公園、そして1歩踏み入れば、やはり美しい野原が広がる白川の里、そして里山の風情が残る志津川、そういったところも観光の対象となっていくのではないかと。地元の意見として観光化すればいいのかどうかはわかりませんが。そして、天ヶ瀬に駐車場を整備して、道の駅なんかをつくって、やはりこの太閤堤も含めた新たな宇治川の資源、観光資源の改築という取り組みができたなら素晴らしいんじゃないかと、私は考えているところです。

【坂上委員長】

ありがとうございます。事務局のほうで何か、ちょっとそういうので必要なところはあるか。

【事務局】

歩道の件については十分わからないんですけど、例えば、白川なんかですと、歴史的風致というところでも守っていこうといったことをしています。そういった形で、1つのルートとして整備になるのか、今の形を残した形で歩いていただくコース設定というところでもいいのかわからないですけども、そこらも含めて検討をしていきたいというふうに思っています。

【北村委員】

整備するだけじゃなしに、トイレとかバリアフリーなどの観光のレベルの向上をどのように取り組んでいくのか。全体にバリアフリーというのは無理ですから、ここまでは行けません、ここからは行けますよと、やはりそういった優しい観光、そして清潔で、きれいな観光、これがやはり、求められていくんじゃないかなと思います。

【森委員】

私も、やはり宇治川マラソンというのがあって、今、マラソンブームでもあるので、年々参加者の方も増えている。あの周囲は非常に景観も素晴らしいこともありますけど、観光のランニングコース、散歩コースになっているというので、スポーツ観光を考えたときに、太陽が丘という大きなスポーツ施設とイベントをすることもあるんですけど、観光しながらスポーツも楽しんでいただくという意味では、非常にポテンシャルの高いゾーンが宇治川の周辺にあるということは、本当に賛成します。特に宇治川、宇治橋下岸には、サイクリングロードも、太閤堤の関連で隠元橋から一本で来れるように整備をされているので。そういう意味で、例えばランナーズステーションの整備とか、サイクリングに対して、ちょっとアクションプランの中に入っていないので、そのあたりを歩く観光とのバランスの中で、点を面につなぐときに、どういうふうな周遊性を設定するのかということ、もうちょっと必要で、改めて見直すたびに、いろいろ問題が出てくるように思います。バリアフリーのほうも、先ほど全部は無理なんだけどとおっしゃったんですけど、私もバリアフリーをテーマに、観光バリアフリーという授業をさせていただいたことがあるんですけど、まだまだソフト的にもできていないところがある。ただ、ポテンシャルとしては、

この狭いエリアの中で、これだけの楽しみを1日で味わえるということは、本当に年配になっても、十分行き先として選んでいただける場所だと思うので、ここをずっと書き込めていないんですけど、それはアイデアとして出てきたなというふうに思います。

#### 【八木委員】

最初に観光協会の組織の関連で1つだけ。同じようなことも私を感じているんです。京都府が京都府域全体の観光の理念を考える。それを具体的に実施するのは観光連盟というふうな大きな話です。そういうことなんです。ただ、観光連盟もそうですが、宇治市の観光協会も会員さんがありますし、法人としてのいろんな役割があります。そういう役割の中で京都府の理念に基づいた事業実施をすると、京都府が実際にやるべきこと、直接行政でないといけないことがあるということと、広域振興局が4つありますので、それぞれの役割の中でどうするかということ。もう毎年いろんな議論を中でされていますし、おっしゃったように、なかなか難しいことがあります。ただ、大きな理念がある中で、やっぱり、できることからやっていくというのが今、現実の話です。

次に具体的な今回の戦略プランですけれども、1つは宇治市の観光が400万から500万に増えた要素の中で、1つは、太陽が丘公園で45万人増えています。37万人が寺社仏閣ということになっていますので、スポーツ観光で来られている分で年間200万人ぐらいのカウントですので、これを黙って帰ってもらうのは大変もったいないなと思っています。そういう意味では、先ほどの宇治川マラソンであるとか、何かその中で宇治茶のお土産を買っていただくとか、先ほどの宇治のお茶を飲んでいただくのも、何かそういうスポーツのところで必ず宇治茶をPRする。私も太陽が丘は、もう何回も利用させていただいて、全国からかなりの人が来られています。しかし、そのまま何も買わずに車で帰られるので、それはもったいないという気がいたします。それは何とかしたいと。

それと、具体的に宇治茶の関係で、給茶スポットとか、それからお店でのお茶のサービスということで、今までお茶は無料という感覚があるんですけども、宇治に来ると何とか無料のお茶じゃないというようなことを何かできないかなというふうに思います。

それから、マップのことですけれども、確かにたくさんの種類のものをつくると、すごく経費、期間がかかるんですけど、情報というかデータはやっぱり常に集めていくということで、その同じ情報で、それぞれのところの思い、事業者の思いがあるので、それを活用されたいかなと。その情報を宇治の観光関連の事業者が誰でも使えるようにしてあげると、比較的経費もかからずに済むんじゃないかなというふうに思います。

それと、これは大変しんどい話ですけど、やっていただきたいのは、6ページのフィルムコミッションの設立です。これは今、京都市以外では舞鶴市だけやっています。大変ですけども、ぜひ宇治の景観、茶畑景観、これをやっぱり映画とか、いろんなところで撮っていただけるようになれば、非常に良いというふうに思っています。

それと、7ページのところで宿泊サービスの強化です。私が先日、いろいろ行かせていただいた中で、観光客のリピーターの人が絶対来たいと思うときの1番は、やはり宿泊先の従業員の人のやりとりで非常に印象に残っているからリピーターとして来たいというふうなことがあるの



で、観光連盟もいろいろと、こういうことを頭に入れながらやっていきたいと思いますけども、ぜひ宿泊サービスの強化というのがリピーターにつながるんじゃないかというふうに思っています。

#### 【事務局】

今言っていたいただいた幾つかの点の中で、太陽が丘というのが、やっぱり大きく 100 万人以上の集客があると。この間、太陽が丘で合宿であるとか全国大会をやられており、それには宿泊も伴うということですので、既に太陽が丘と旅館業組合なんかとのつなぎといたしますが、そんなことも徐々にですけれども進めているといったところでございます。

#### 【八木委員】

太陽が丘は、関西から来ても日帰りで帰らるのが本当に多いんです。あそこで、もっと大きなイベントをするときは、あの中で特別に物産展とかをされているんですけど、それは、もうたくさん買って帰られるというので、このアクションプランの中で宇治茶にかかわる新しい商品をつくって、そこで何か販売をしてもらう。それが全国に伝わるようにするのが一番いい形ではないか。観光連盟としても応援します。

#### 【古賀委員】

アクションプランの 3、4 番に関連するようなことなんですけど、今月の 15 日の月曜日に源氏銘店会の定例会議に観光協会、宇治橋通商店街、表参道商店会の代表を呼んでいただきました。今までなかったというのでびっくりしました。史上初の合同役員会が開かれたということで、非常に実りのある会でした。気がついたら 10 時やったんですが。

その中で、どこの商店街も予算がないという中、平等院の改修、宇治川の河川の改修と領土問題で中国、韓国、台湾の観光客が非常に減っています。もう、これ危機感を实感していますし、そういうふうな現状の中で商店街として何ができるのかという話ですね、また何をすべきなのかという話をしてもらったんです。平等院表参道商店会からの提案としては Wi-Fi の環境の整備。今現在、平等院さんと表参道商店会が Wi-Fi のスポットの工事を完了しているんですね。でも、それだけではやっぱりちょっと外に出すときの効果としては非常に不満があるんですよ。やっぱり海外からのお客さんには、すごく有効的な手段ですので、宇治広域で Wi-Fi のスポットがあったほうが良いだろうというふうに考えているんです。そのためには、やっぱり環境の整備というのが大事になってきますし、Wi-Fi といっても、ただのインターネット回線なんですね。それを整備したから、それでいいですよというだけではなくて、今度はそれにつなげなあかんのですね。その仕掛けとしてはホームページジャンプという機能があるんですよ。Wi-Fi をつなげるために SSID とパスワードみたいなものが必要なんです。それは一応、平等院さんと商店街のほうは統一の ujicityWi-Fi というものを統一してあるんですが、今後また観光協会さんとかもされる予定ですので、それはもう統一のものになります。

そこで、ホームページダウンという機能がありますので、アクセスをした時点で、そこにいる商店会の情報が勝手に飛んでくるんです。どれでも何でもいいんですけど。そこに平等院表参道

で開いて平等院表参道のホームページは飛んだけども、そのホームページの中にほかの商店街のホームページをリンク活用する、リンクを張り付けていくんですね。例えば、観光協会さんの宇治ナビありますよね。あれのアプリ、ダウンロードしなければならないんですけども、そのアプリのアイコンを張っておくとか、商工会議所の宇治土産.com、そういったもののアイコンのリンクをつけてとか、あと宇治橋通商店街も源氏タウン銘店会なんかもホームページなり、そういうなものをつくって、もろもろの環境の整備というのが、まず前提になるんですが、そういったものも有効になるのではないかと思いますし、先に伏見の商店街さんとの連携をすることができれば、向こうの商店街さんのリンクも張りつけておけば広域観光というんですか、それにもつながるのではないかというふうには感じていますし、環境の整備ができればいいなと思いますが、やっぱり多少なりともお金が要りますので。

今回お世話になっているインフィニティという会社に関してはランニングコストがゼロなんです。ですので、インバウンド対策の1つとして宣伝広告というような意味で、やっぱり向こうに有益な打ち出す素材がなければ何も対策としてはできませんので、そういう1つの呼び込みの素材として必要かなと思います。

あと、表参道商店会では今までずっと企業のコストのかかるハード面重視のイベントばかり考えていたんです。宇治橋通商店街の中西さんのほうからのご提案は、ソフト面重視のイベントの参加というか、引き合いみたいな提案があったんです。それは各商店街がキャンパスとか舞台となるという考え方で、今、中西さんがやっておられるフェスタとリンクするのではないかというふうに思っています。大学生さんの作品の展示とか、宇治市の小中学生の作品を募集、源氏物語などというテーマを、お題を、こちらから設定させていただいて作品を募集して、それを展示する。また展示することで、その作品を展示した子供たち、その親、親戚というふうな方々も来ていただけますし、ちょっとそれは1つ有効なんかなと思います。これに関しては中西さんのほうから、すごくどういふ今まで苦勞があったのかというのをご教示いただきたいと思っているので。

#### 【森委員】

今年は笑顔がいっぱいわんさかフェスタと宇治茶のスタンプラリー、聞き茶巡りを同日開催させていただくんですね。これはまさに相乗効果を狙って、地元の方で宇治橋通りに来ていただく方に宇治茶を味わっていただき、昨年、宇治茶のスタンプラリーはアンケート調査で1割、観光客があったんです。要するに開催圏ではない方たちが参加される。そうすると、その方たちに宇治橋通りの魅力もわかっていただけるといふ。そういった連携が非常に重要だということ、古賀さんは多分いろんなところで実感されて、あと1時間ぐらいは語ってくれはるといふと思います。

#### 【中西委員】

その辺は、商店街が束になって考えていかなあかんことやし、とりあえず、もうちょっと目線を、地域を空中から見て、そこで戦略を立てたらええんちゃうかと思つて。であれば、ちょっとアートで全部包むとか、そういう催し、イベントばかりもいかなんけども、ただ、特徴あるイベントを、それも定期的にずっとやっていったら、それが発信することになるし、それも大事

なことと思っていますので。我々がどうしてもできないことというのは、車の客の対策、観光バスの対策は全然やりようがないんですよ。バスストップをJR側と京阪側で2カ所あって、そこで降りてもらって、迎えに行くのは岩井駐車場という何か、この辺を、何とかできひんかなと。それが我々では、もうどうしようもないんですね。あとは、こうやり出して、埋めていくこともできるんですけど、それぞれの対応もどうしていったらいいのかなというのは考えていきますけれども、ちょっとそれだけが、どうも、ちょっと気掛かりで、何か置いてきぼりにされそうと考えていただきたいなと、そう思っております。

**【坂上委員長】**

商店街バラバラというのは、あんまり良くないですよ。実は嵐山の5つの商店街なんか見ますと、話し合いなんかしたことないというのがあります。しかし観光客の立場からいうたら、あり得ないだろうと。お客さんは、みんな同じ商店街を歩いているじゃないですか、5つも。だから、今かなり京都市さんが尽力して話し合いの場と、それから勉強のための予算をつけて、かなり若い方たちを中心に風通しが良くなって、1つの物事を、新しい動きが、そこを中心に動くようになってきました。だから、ぜひ商店街の活性化という視点で、なかなか打つ手がないと思いますので、むしろ今のこのような動きを行政の側から、そういう話し合いの場をむしろオーソライズされたところであれば、皆さん、出てきやすいと思いますので、オープンの場を設営されては。

**【通円委員】**

伏見の商店街も、そこもやっぱり仲が悪いんですわ。今、良うなったでしょう。今までは何か聞いてたら仲が悪そうなんですわ。宇治のまちでも何か最近ちょっとチラッと聞いた話なんですけれども、観光協会に任しとったら何しよるかわからんから我々でやろうという何か集まりがあったようにも聞いているんですわ。

**【坂上委員長】**

伏見は京都市さんが頑張ってるやろうとした第一号なんです。あんまりうまく結果が実ってなくて、動きが変わってきていますが。

**【通円委員】**

そんなんで、この間の灯り絵巻でも、せっかくお金かけてやっておられるんですけども、本当に少ない人やったと思うんです。告知も遅かったですし。ポスターも配ったはるし、パンフレットも配られたけど、来られたのは不発やったんじゃないかと思うんです。

**【古賀委員】**

僕、思うんですけども、茶まつりとか田楽とか、いいことやってはんに、何かすごい寂しいですよ。

【通円委員】

もう一緒のときにやったらどうやと。おとついの田楽でも、灯り絵巻と一緒にやったほうがええのちゃうのというような話はチラホラ聞くんですわ。

【古賀委員】

来てくださる観光客の方もやっぱりいたはりますので、その方たちは、店も出店もないし、ポツンポツンと電気があるだけで何も無い、寂しい、寒い、茶まつりも朝早いですよね。知らん間に終わってる、何かもったいないなと思うんですよね。

【坂上委員長】

商店街の連携、まちづくりの基本だと思しますので、やっぱり、すごく、ぜひまとまっていくような方向を、この計画の中でも何かしていただけるということではないかなと思います。それと、併せてホームページをと。どこの商店街がホームページ、ある、ないとかじゃなくて、宇治市の中心がホームページ1つになってないと駄目なんで、できたらそういう形にさせていただいて、データベースを共有していただいて、みんなが自由に見れるという、そういう。

【古賀委員】

そういうようなのを1つで網羅しているようなのは絶対ゴチャゴチャしてませんし、それがいいですね。

【坂上委員長】

そのホームページのバナー広告でお金がもうかるぐらいの価値はあると思うんですよ。それが原資になって活動していけると思しますので、それを観光協会が多分ね。

【北村委員】

今やっております。やっているんですが、バナー広告のバナー、お茶屋さんがゼロなんですよ、協賛していただく方が。やっぱり観光協会の発信力が弱いとかぐらいのところも感じるんです。それと職員も、そないに活動をやっておらなくて、だから非常に現実には厳しいという認識をしているんですね、いうたら。

【坂上委員長】

それは外部の広告料を取れるところまではいってない、現地だけ？

【北村委員】

いや、それは外部やなしに今は市内のところ。外部は行ってないですね。職員1人、一生懸命活動をやってくれてるんですけど、

【森委員】

先ほど古賀さんが、例えば茶まつり、朝終わって、灯り絵巻の開催とか、10月、いつも観光が順番に週末ごとにある。その開催日に関しても、私も宇治橋通さんにかかわらせていただいて、同じ日にやった年もあるんですよ。ただ、それを調整するところがない。今、少なくとも話ができるようにしているだけ随分改善されていて、取りあえず中西さんとか、通円さんとか、観光協会とか10月、あんまり固まるよりもシーズン全体を、いつ来ても何かやっているという方針でやろうというふうにやって、茶まつりに関しても、とにかく私は連携広告で、自分のところを宣伝するときは必ずほかのものも全部合わせて広告する。やっと今年、宇治のスタンプラリーとかも全部載せてもらったようになっていきますし、京阪さんのおかげで茶まつりとかも、そうやって載っているし、やっとそうやってきていて、でも誰がそれを調整するのかというのが常に中に浮いている状況なんです。だから、やっぱりそこをきちんと、考えないといけなくて、観光協会にも相当に毎年働きかけていて、1日イベントのポスターでは、それこそ事業者さんなんか貼れなくて、1カ月間、宇治の観光ポスターということであれば、1カ月間のものなので貼りやすいということも事業者さんに頼みに行ったときに言われていて、なので、宇治全体で連携広告のようなポスターをつくれればいいんじゃないかということをしているんですけど、なぜか実現しないんですね。そうすると、観光協会すら多分、それができないとなったときに、じゃ、行政がということなのかというので、駅の広報板なんか結局、管轄が違うので手が出せないんですよ、はっきり言って。そういう感じのことがいっぱいあるので、やっぱり、そこは本当に今みたいな個別のものを調整していく、おっしゃるように場と機能が本当に必要やなと思います。

【古賀委員】

まとめる必要はないと思う。

【森委員】

まとめなくていいです。でも調整しないと。

【古賀委員】

1つの行事に対して、もっと、例えば田楽だったら田楽の音楽がありますので、田楽の音楽を商店街で流してみたり、雰囲気づくり。

【森委員】

お互いに助け合うということがね、ないんですね。

【古賀委員】

そうですね。それ、どういうことをやってほしいという具体的な何かがあれば協力はしますけどね。

【森委員】

ただ、その事業主体の方にとっては、その事業自体、やるだけでも精いっぱいなので、連携し

てくださいということをしていて、お願いをしているような余裕は多分ないんです。だから、それをどこかで一気に、もっと忙しくなる前の段階できちんと全体を見渡して、じゃ、これ、一緒にやろうなという確認がとれていれば、ものすごく動きやすいんですけど、多分それをみんなわかっていて、できないまま来ているんじゃないですかね。

【坂上委員長】

通円さん、全体を通して何かご意見は。

【通円委員】

やっぱりお茶屋さんの役割が大事やなど。お茶の行事をやって、なかなかお茶屋さんの参加が少ないような現状です。先ほど観光協会のホームページ、協賛してない。ちょっと、まだまだ無関心の人がうちは多いんです、お恥ずかしい話なんですけど。そんなことで宇治のまち、今、京都のまちもそうかもしれませんけども、誰かがやると、わしら何にもせんでええわ、そういうような思いの業者の方が多いように思うんです。ボトムアップ、ボトムアップと言われながらも口先だけでは言うんですけど、実際ボトムアップしていただいているかというたら結局トップダウンで上が考えんことには、ものはできないというような現状じゃないかなと思うんです。ですから、我々、この15日に銘店会、業者が集まって意見交換会を、もうテーマをあんまり決めずにやりましたけれども、そういったことを重ねていくことによって、いろんなことが、アイデアが出てくるんじゃないかと思うんです。そういうことをしていく必要がありますよね。この前でも普段、交わしてない人も来ていただいてまして、こんな人いたんだ、こんな意見を持ってはったんかという掘り起こしにもなりますんで、こういう場を設けてやっていくということが大事じゃないかと思います。

【古賀委員】

非常に勉強になって、すごい感動したんですけど。中西さん、全体としてやっている人、宇治市全体として、商店街全体としてやっているという。

【中西委員】

いや、これはシステムでいけへのやったら、やっぱり、ある意味の覚悟というのが、まず、この人が持っているかというのが非常に大事だと思うんです。先ほど税のシステムがあったらええんやけど、片方で、これをやろうとする人は、やっぱり1つの大きな覚悟が要ると思うんですよ。そこで何が何でもやるというやつ、先ほどの、これができひんのやったら、どうしたらできるかというやつね。それやったら活動の考え方を持ってチーム組んで、それをつくってまうと。そこで次に、それが回転していったら、それが観光協会の中に入っていきのがええのか、それはやりながら考えるという感じでやっていかんことには、なかなか。それが一番根っこですわ。今日のが一番根っこですわ、一番大事なことなんですけど、それが一番もどかしい。やるかやれへんかの瀬戸際なんですけど。ですから、まずこのメンバーが覚悟を決めて、みんな血判でもええからして、やるんやというのを示してもらわんとね。

【坂上委員長】

それが本来の計画なんですけどね。

森先生、ちょっと全体の通してのご意見をいただきたいと思いますが。

【森委員】

京都府は理念を持って、政策監、観光監も見ているらっしゃって、そういうふうにはやっています。それでも足元で見ていると同じようなことをあちこちでやっていて、失敗してもまたやるという。そういう意味では何となくもどかしい感じで。

私、京都府と宇治市に1つ大きな声として申し上げたいのは、やっぱり京都市さんは京都市さんで政令指定都市として独自に観光政策を進めているらっしゃる。そういう形と、京都府も観光政策監を置いて、府市連携も前の担当の方の馬力で本当に相当なパワーでやったということは私もよく存じ上げているんですけど、京都府や宇治市とは本当に違うなと。宇治茶でも全く同じなんですけれども、やっぱり宇治茶はどうしても府の事業になりがちだと。それは、宇治茶というものの持っている性格自体、産地全体が山城地域だということで、それを平等配分とか、そういう公平性の原理という視点でとらえてしまう。ではなくて、発想の転換で宇治が頑張ることで全体をどううまく巻き込んで引き上げてぜひやっていけるというような、そういう関係を京都府さんと作らないといけないだろうと思うんですね。そこは、やっぱり宇治市の力というか、宇治市のほうからの強い働きかけがないと、京都府さんの側から、それを言うていくことは、たまにこっちから言うていただけですけど、なかなか振興局といえども難しいだろうというふうに思います。

それと全く同じことが宇治市の中でも構造的に起きると思うんですね。例えば京都全体を見たとき、坂上先生が一番ご存じやと思うんですけど、嵐山とか東山とか、観光地のところはいいいよね、でも、その間を見たときに、四条は真ん中でどうなんねんと、京都市もなかなかしんどい状況になっていると思うんですよ。そしたら、この宇治の観光計画をつくりました。中宇治の人はいいよねとか、観光業者さんはいいよねと、お茶屋さん、いいよね。だけど、それを市でやるのか、という話は、またどこかで出てくると思うんですよ。そういう意味では、例えば、おもてなしだとか、市民意識の向上に関する取り組みを、市民観光デーという言い方すると、よろしくないなと個人的には思っていて、もう少し、ふるさと宇治とか、何かもう少しそういう、みんながかかわれる開き方をしたほうがいいと思うんですけど。そのあたりの市全体の財産にしていくところを、中でやる人は覚悟したと。だったら、それを市民全体として、どう支えるのかということ、もうちょっとよく考えないと。商店街とおつき合いさせてやらせていただいても、中宇治の方から、あの人ら、商売でやったはんのやろうと、何でそんな、一生懸命に手伝うみたい。私もお金もらってると何か勘違いされていてみたいなことって、今までも結構あるので。お茶も全く同じです。お茶屋さんからお金をもらってやっているとわかってみたい、そういう市民の誤解って絶対あると思うんですよ。でも、先ほど私が再三申し上げているように、宇治市にとって観光というのは、やっぱり市の財産だし、宇治市がこれから魅力ある都市であるために、やっぱりもっともっと考えなきゃいけない。やっぱりさっきの12ページに戻るんかなと。市民の

役割とか行政の役割のところを、もうちょっとこんな2、3行じゃなくて、しっかりと本当にイメージを持っておかないといけないかなと思います。

#### 【中村委員】

今、先生がおっしゃっていたようなことと関係するところなんですけど、アクションプランのように、おもてなしの力、市民の向上のところなんですけど、私も実は同じような活動をやらせてもらっているんです。

そういう視線から見ると、実は私らの仲間の中に、もともと宇治で住んでない、要は北海道から来たり、九州から来たり、北陸から来たり、いろんな人がおられるんですけど、その多くの方が宇治って本当に素晴らしい町やおっしゃる方が大変多いんです。それは、今までずっと話がありました歴史であるとか文化であるとか、お茶を通じた風土、そういった中にあるコミュニティーが、やっぱり素晴らしいと思っている方が、たくさんおられる。私、肌身に感じているんですけど、そういう視点で見ると、4-1の市民意識の向上というのは、ちょっと弱いのと違うかなと私、思っています。これ、お客さんですよ、ここって。もっともっと、そういう思いのある市民の方が、それなりに役割を与えられるような、そういうシチュエーションみたいなのがあったら、そういう力を持った市民の方が入ってきてるのと違うかなと。私は、ちょっとこれを見て感じていました。

特に、ITの関係でいうと、ここに書いてあるツイッターとかフェイスブックとか、いろいろ書いていますけども、それ、恐らくここで書いてはるのは自ら発信するということやと思うんですけど、今もうツイッターにしてもフェイスブックにしてもブログにしても、もう個人が発信していけるんですよ。個人の中にそういうものを、どんどん入れていくような、そういう市民の組織化みたいな、そういうのがあると、定義がガラッと広がるん違うかなと、そんなふうにして、これを見ていました。そういう目で見ると、情報発信力の強化の後半のところ、5でフェイスブックのことが書いてあるんですけど、ここなんかに、もっともっと発信する仕掛けが大事なじゃなくて、その仕掛けを使わはる人、いろいろないい情報を持った人が、これを使って、どれだけの情報を発信していくことが、すごい大事やと思うので、そういう人たちを、いかにつくるかということが、ものすごい大事やと思うんです。そういうことが、やっぱりしっかりと押さえとかなあかんと思うんですね。そういうふうな目で見ると、IT技術と書いていますけど、私いつもICTと言うんですね。ITって情報処理だけなんですけど、やっぱり、そこをつなげるC、コミュニケーションというのは、すごい大事やと思いますので、ここはCを入れてもうたほうがええの違うかなというようなことを感じています。

#### 【森委員】

実施主体だけ一覧表にすると、私も専門委員会ですってんですけど、市民のところほとんど空欄なんです。やっぱり、それは相当な問題なので、先ほど宇治市全体の計画で打ち出されたということは、何かやっぱりやる側と受ける側というか、市民の中も分断されちゃった計画になっているんで、もう少し巻き込むことの可能性なり入れてもらったほうがいいと思います。



### 【古賀委員】

結局、そういったSNSを活用していただいて、地域の方というのが前提ですよ。最近でもフェイスブックとかも古いと言われる時代になっていても、ブログだとかインターネットみたいなのが出ていますので、それってもう皆さん個人で宣伝広告してくれるみたいなものじゃないですか、先にイベントを。やっぱり基本、何かをしないと、素材をつくらないと、それにも乗ってくれないので、それを何かできないかということまで話を、この間、したわけですよ。やっぱり市民参加型のイベントというのが、予算がなくてもできるものを、ちょっとずつつくっていくということが効果があるかなと。

### 【坂上委員長】

観光でソーシャルビジネスとかコミュニティビジネスを、どうしていくかということが結構重要なところだと思いますので、それは、また市の中で違うセクションだと思うんですけど、そういったところと観光とか、どう結びついていくのかということと、そこに商店街の管轄で、どういう役割を果たしてもらえるのかという、その辺が結構、テーマになりつつありますね。せっかくですので、行政の方の部長さんの話をお伺いしたいんですけど。

### 【木下委員】

都市整備部長の木下です。私どものほうでは、まちづくり全般と、それから文化財の保全なんかも一緒にやらせていただいております。そういう意味では今回の観光振興計画とも非常に密接なかかわりが、たくさんあるんですけども、今日いろいろご助言くださっていただいて、今日のアクションプランが、これでたたき台といいますか、これが出そろったところで皆さんが具体的な事業展開、アクションプランの、さらにもう一つ深いところを今日いろいろ議論されたんじゃないかなという感想を持ちました。実は、この会議よりも少し前に、歴史的風致維持向上計画づくりを都市整備部のほうでやっています、その中でも、いろんなメニューなり、こういう概念をきっちり整備し直すという作業が今まであんまりなかったところを一定、お示しすることで、次の話が展開していくんやなと実感をしていました。

今日まさにその話で、観光振興計画で、こんなことをしていったらいいんじゃないかというプランが出たところで地域の方、商店街の方、それからいろんな関係者の方の中で、じゃ、これをやるのを具体的にどうしようかという話が今日やっと動き出したのかなと思います。今日の資料だけだと具体性に欠けることも、たくさんあると思うんですけど、ぜひこの中身について、ここで気づいて具体的なものにつなげていくという作業が、ずっとこれから展開してけたら、きっといい話になるんじゃないかなと思います。あと、それと文化財とは言いませんけど文化的景観とか、いろんなものを守っていくことも、これからいろいろやっていかないとかなんですけど、宇治茶だけにしましては、守らないかんこと、たくさんあると思います。現実の茶業の方々、特に農家の方々は非常に厳しい状況に置かれていて、今回の災害でもたくさんの茶畑が被災された。そんな中でも、見た目の景観だけじゃなくて、そこでの生業をどうやって守っていくかというのが、これからの観光の中で考えていく必要があるんだろうと思います。幸いにして今回、被災された茶畑については文化庁さんからの補助事業で修復ができるとか、覆下栽培の覆いの復旧

なんかも今回できるようになりましたし、そういうことも含めて、ただ単に見ただけでなくて生業をどうやって守っていくかということも、これからは踏み込んでいく必要があるんだろうなと思います。

【松田部長】

私はこれを提出させていただいている担当の部の部長ということになりますので、直接的な発言、ちょっと控えさせてはもうてたんですけども、今日お話をいろいろお伺いしております中で、やはり森先生が言っていただきました役割の部分というのを、もうちょっと我々としても補強をさせていただかないかなというふうに感じているところであります。これまで宇治市がずっとやってきたとおりの宇治市の役割でいいのか、またそれぞれ各団体さんが担ってこられた役割でいいのかというのは、これは今回、ちょっと私、結構個人的な意見もあるんですけども、みんなで一緒に進んでいきましょうでは、これからの世の中、なかなかすべてが発展するかどうかというのは難しいところがあるんじゃないかなと。先ほどどなたかもおっしゃいましたけれども、少し集中して頑張られたところにリアクションのあるような形ということで、少し差がついてもいいのかなというふうな感覚を、お伺いしている中で思いました。

一番最初に平等院さんが、どこかに役割が集中し過ぎているということも、実は、そういったことがあるのではなかろうかと。みんなが平坦に、手をつないで一緒に行きましょうねという時代じゃないんじゃないですかということも暗におっしゃったのかなと、私はちょっとそういうふう感じたところがあります。今までの市役所がこういった計画をつくる時にやっていた手続といいますのが、こういった場でお話をお伺いして、わかりました。

また直して持ってきますということなんですけれども今回、事務局にも伝えていたんですけども、このお話、もう1回させてください。さっき、11月ちょっと間を開けてと言うてましたけども、皆さん、それぞれ母体のところへお持ち帰りいただいて、またみんなでいろんな議論をしていただきたいんです。公務員の頭で思いつかないこととか、いろんなお話を今度、次回また持ってきていただいて、そのとき、ここでこういう話をしたけども、持って帰ってみんな聞いたら、やっぱり違うことを言われたわとかということもあるかもしれませんので、ここの議論をじっくりさせていただきたい。それは個別の施策ということだけではなくて、さっきも言いました役割のところも含めて、じゃ、もっと行政、これを担いなさいよという声が大きかったですよとかということも生で聞かせていただいて、この計画というのが具体的に春になってどんどん動いていくようなものにしていきたいなというふうに思っております。ですので、今日これを見ただけで、これはちょっと、あれ足らんよ、これ足らんよという意見とかも、いろいろいただきましたし、こういったものも逐次、お返しをいただいて、いいものに仕上げていきたいという、皆さんが実際これで動いていただけるようにしていきたいという感想を得ました。

以上です。

【坂上委員長】

ありがとうございます。では、予定の時間にほぼ近づきつつありますが、その他を含めて何か、このマスタープランで、こういうことをしてほしいというご意見をお聞きしたいと思いますが。

どうぞ。

【八木委員】

2点だけです。1点は、前のデータを見させていただいたときに、来客の月別で、12月、1月、2月が非常に少ないというふうなことも頭に入れつつ、いろんなものを当てはめるときに考えていくべきかなというのを思います。もう1つは、これはご存じだと思いますけれども、京都市の市民憲章の中に私たち京都市民は旅行者を温かく迎えましょうというのが入っておりまして、その中で国内外の旅行者をもてなしの心で迎えましょうということで、具体的に修学旅行生や困っている旅行者に手を差し伸べるとか、声をかけ地域の観光マップを使った観光案内をつくるとか、入浴された外国の方を温かくサポートする、道案内するとか、そういうようなことも触れて書いておりますので、ぜひ市民の、ここで市民観光デーとか、いろいろと市民向けのがありますので、そういうふうなことも含めてみんなが、市民の方が観光客を受け入れるというようなことも本当に大事なかなというふうに思います。

【坂上委員長】

ありがとうございます。そのほかは、ございませんでしょうか。はい、じゃ事務局から。

【事務局】

先ほど十分説明もできなかつたんですけど、今日、具体的なご論議はいただけなかつたんですけども、一番最後、13ページのところには宇治市観光計画の進行管理に向けてというのを記しております。この中で、この計画そのものについてのご議論、いろいろいただいているんですけども、計画ができた段階で、絵に描いた餅じゃなく、終わらせることなく、食べられる餅にしようとして最初、委員長のほうからいただきました。そのためには、どういった進行管理をするかというのが非常に大事であろうというふうに思っています。1つには我々のほう今、観光協会のほうに各事業者さんで構成した策定の専門委員会というのを持っているんですけども、それを改変しまして進行管理の委員会にしたい。できれば今、商店街の中でいろんな集まりがあって、いろんなことが知れたよ、新しいことが知れたと。ここで交流が生まれて、次の連携ということに進んでいくのかなと思っています。こちらの専門委員会のほうも、今後も引き続きやっていって、それを続けることによってまた新しいアイデア、この計画の中でできていないところ、新しいものができてきたり、やっぱりこれ、あんまりあかんというものは無くしていったりということができないのではないかなというふうに思っています。そこを観光計画の中の進行管理の組織にしたいと。それと併せまして今、庁内のほうで観光の関係する部門、歴まちであるとか、先ほどありました茶業は農林のほうでやっていると。農林茶業課であるとか、源氏ミュージアムとか、いろんな部局が集まりまして連携をとっていると。それにさらに観光協会に入っていて、具体的に市での進め方、それと協会あるいは事業者との進め方を連携しながら今後5年間、ずっと進めていきたいなというふうに思っております。今の案では、そんな形での進め方を考えているといったところでございます。

それと資料1のA3のほうの2枚目なんですけれども、こちらのほうに前回の策定委員会の中で、

前半の観光方針までのところで幾つか指摘をいただきました。1つには、計画が複雑になると市民に理解してもらいにくいよ、もっとシンプルにしたほうがいいよといったことが1つ。それと、コンセプトについて、宇治茶と歴史、文化の香る町といった歴まち計画であるとか、第5次総合計画のサブタイトルになっているものを同じように使わせていただいたんですけども、宇治茶を除くと、どこにでも当てはまるよと。もう少し宇治市らしいものにしてはどうかといったご意見、いただいたところです。1つ目については、基本理念というのと基本目標というのを持っておったんですけども、少し似通っているところがあるので、1つにまとめていきたいなと思っています。それと、2点目のところ、コンセプトのところなんですけど、本来、事務局のほうでもコンセプトというのは、宇治市の観光の概要といいますか、観光とはどんなもんやというものをイメージしたものがいいのか、あるいは今回の計画の方向性、どこを推しているのか。今回であれば宇治茶推しでいこうというような方向性になっていますので、宇治茶推しのコンセプトにしたほうがいいんやということで考えました。ちょっとコンセプト案までには絞った形にはできていないので、このあたりは1つ、次回までの宿題にさせていただきたいなというふうに思っております。併せて今回、宇治茶を1つメインに推していこうといったことをしていますので、もともとの宇治茶を主な観光目的として来ていただいているところを、これまでより増やしていこうと。1つの数値目標にしていきたいというふうに考えています。最初、話がありました宇治茶、茶業者との連携というか、そこらがちょっと不足しているよということもおっしゃっていただいていたんですけど、今回、計画を契機に今回、宇治茶推しで観光と宇治茶というものを融合させていきたいという考え方を持っていますので、今後とも行政側からも、ぜひ働きかけを進めていきたいと思っていますので、またご協力をいただければというふうに思っています。

#### 【坂上委員長】

ありがとうございます。少し今までのご意見をまとめさせていただければと思いますが、皆さんのご意見をお伺いしています計画づくりは事業の中身も非常に大切ではありますが、仕組みについて、新しい機運につながっていくような契機にぜひしてほしいという皆さんのご意見があったのではないかなというふうに思いますので、この計画ができた時点から、何か組織が動いていくという、そういうイメージをぜひ持っていきたいなというふうに感じました。機運、啓発につながるような、契機になるような計画ができれば、そういうことを皆さん方が熱望されておられるというふうに思ったのが、全体をまとめる1つのテーマになってくるのではないのかなと思います。

あと、若干、やっぱり観光は究極に人材が非常に重要ですので、人がとても観光にとっては大切だということを何かうたい込む必要がどうもあるのではないかなと思いました。あとは、私の個人的なものでいうと、事業でいうと誰に来てほしいのかというターゲットが、もう少し明確にしておかないと、スポーツマンも来てほしいし、歴史愛好家も来てほしいと。じゃ、高齢者のスポーツで歴史が好きな人、もちろんおられますので、少しターゲットについて、もう少し宇治にふさわしい、来てもらって満足してもらう人はどういう人なのかというも若干、記述があったほうがいいのかというふうに感じました。あとは皆さん方のご意見を事務局のほうで、後でいろいろまとめていただいたらと思います。最後に投げかけられましたコンセプトなんですけど、参考

まで、私の今のイメージは「宇治茶の都」というのがいいかなというふうに感じました。京都も含めて都の1つだと。それも宇治茶、オンリー1ですので、言えるのはここしかないから、宇治茶の都づくりは、もう宇治しかできないわけなんで、何かそういう言葉が浮かびましたので、これも1つにさせていただいたらどうかというふうに思います。

**【通円委員】**

宇治茶の定義なんですけれども、宇治茶といえば滋賀県も三重県も奈良県も宇治茶なんですね。せっかくこれ、世界遺産に登録されようとしているときに、よそに宇治茶を取られてしまったら、三重県も宇治茶ですよと言いますよね、当然ね。今おっしゃったように、宇治茶の都、宇治がルーツやねんから、その基やねんからということをもっとPRしていかないと取られてしまうと思うんですよ。ですから、本当に、特にこの宇治茶というのは大事やと思うんです。

**【坂上委員長】**

そうですね。都というと平等院さんも全部含めて歴史、文化を含めてのニュアンスになるということに私としては。

**【森委員】**

すごくいい。

**【坂上委員長】**

すごくいいので、似合っている、全国的にも勝てそうな気が。では、ほかにないようでしたら、次回の日程について、事務局のほうからご説明、お願いしたいと思います。

**【事務局】**

お手元のほうに次回の開催日のアンケートというのを配付させていただいております。お帰り際に事務局のほうにお渡しいただいて、できるだけ速やかに、また次回の日程につきまして調整していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。以上でございます。

**【坂上委員長】**

ありがとうございます。どうも皆様方、本日はお忙しい中、本当に熱心なご議論をいただきましてありがとうございました。それでは、これにて第3回宇治市観光振興計画策定委員会を閉会させていただきます。ありがとうございました。